

第5学年1組 学級活動（1）指導案

指導者 河崎 美華

1 議題 きりん組のみんなに郡家東小学校の楽しさを知ってもらおう

2 議題について

（1）児童の実態（男子7名，女子13名 計20名）

本学級には，学校生活を楽しみたいという前向きな気持ちをもっている児童が多い。高学年の仲間入りから約半年，委員会などを通して学校全体をリードすることに意欲的に取り組む姿が見られる。代表委員会に向けた学級の話合いでも，学校のために自分たちにできそうなことはないか考え，積極的に発言する児童の割合も増えてきている。

学級活動（1）の話合いでは，出された意見のよさに目を向け，柱1でそれぞれの意見を比べ合ったり，決めたりすることについては身についてきている。しかし，柱2「生かし合う」の段階では，柱1での話合いを生かし，提案理由をもとに活動の本質に迫ったり，よりよい考えを導き出したりする話合いには至っていない。活動をよりよいものへとするために，一人一人が，それぞれの思いや立場を十分に理解して互いのよさを生かし合うように考えたり，根拠をもとに結論へと導いたりする力がまだ弱い。そこで，適宜「生かし合うボード」などを利用して意見の深化を図ったり，拡散した工夫の整理を行ったりして，提案理由にこだわりながら話合いを行うことができるよう指導しているところである。また，4月当初の学級の課題として挙げられた，学級が一丸となって活動に向かおうとする協働という点においては，これまでに行った一連の活動を通して改善されつつある。7月に行った2年生との交流では，自分にできることを考え，友達をサポートする姿が見られるなど，学級で何か一つのことに取り組む経験を通して，「みんなでやる」ということの意義については実感してきているところである。しかし，活動の真のねらいを理解し，自分事として必要感をもち課題解決に向かうという点において，改善の余地がある。また，役割を果たす姿においても友達のリードがなければ，消極的な態度を示す児童も数名いるなど，個人差が大きい。臨機応変に自分の力やよさを自信を持って発揮し，集団のために貢献するという視点や，信頼し合って活動するという視点での改善が必要である。一連の活動を通して，学級の課題解決や成長につながる姿をめざしている。

（2）議題選定の理由

本議題は，来年度の入学に向け交流を始めた保育所の年長児に，小学校の楽しさやよさを知ってもらい，入学に期待を膨らませてほしいという思いが込められた議題である。本学級の児童は，10月に保育所年長児と初めて出会い，お互いのことが分かり合える内容や工夫を考えリモート交流を行った。自分たちが計画したことで年長児が喜ぶ姿を見て達成感を感じた反面，相手に対する関わり方の難しさやもどかしさも感じた。また，総合的な学習の時間には，1回目の交流をふり返り，年長児の小学校に対する思いを知ることが優先課題だと捉え，年長児担任へのインタビューを通してリサーチをした。その結果から，小学校のことをあまりよく知らない年長児の実態を把握し，今の自分たちに，何かできることがあるのではないかと話し合った。話合いの結果，自分たちだからこそ，年長児に郡家東小学校の楽しさを伝えることができる，さらに，この交流を通して信頼される6年生になれるようみんなで力を高めたいという思いが重なり，今回の議題である「きりん組のみんなに郡家東小学校の楽しさを知ってもらおう」が選定された。

（3）指導にあたって

指導にあたっては，話合いを通してよりよい考え方や解決方法を導き出す「吟味力」，活動全体を通して自分のよさを発揮し，自分がしてもらってうれしかったことを他者のためにと考える「貢献力」に焦点を置き，今の学級の課題解決をめざしたいと考える。まず，事前に保育所の年長児担任に年長児の思いや実態をインタビューすることで，より相手意識や課題意識を高めた上で話合いに向かえるようにする。さらに，話合い後の活動の役割分担では，これまでの活動場面での自分をふり返り，より自分の課題やよさに目を向けた強い意思決定を行うことができるよう指導する。そして，交流では，保育所の友達に小学校の楽しさやよさを伝え，相手の心配や不安を小学校への期待へと変えたい。一連の活動を，信頼される6年生に向けての成長へとつなげていきたい。本時では，柱1で，「何を通して小学校の楽しさを伝えるか」について話し合い，柱2では，伝える内容，伝え方の工夫や仕組みについて焦点を絞り，「どのように伝えるか」について話し合う。1学期に行った，本議題との類似議題である兄弟学年の2年生との交流では，単に遊びを行うだけでは，2年生の「相手（5年生）のことをもっとよく知りたい」という個々のニーズに応えることができないという課題が明らかになった。

そこで、2年生との交流でのふり返りを生かし、いずれの柱においても、「保育所の友達全員に伝わる」「より小学校の楽しさやよさが分かる」という視点を、合意形成に向かう決め手とする。合意形成の後、互いに信頼し合って活動に取り組むことによって、誰かのためにと貢献する心地よさや喜びを感じさせたい。この活動を通して、自分たちの問題を見つけ出し、さらなる成長をめざして生活をつくり出そうとする意識の芽生えを期待している。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して主体的に参画することの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、問題を解決する方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、課題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

4 活動の経過

	月 日 (曜日)	活動の場	活動主体	活動の内容
事前	9月18日(金)	学級活動(1)	全員	(議題) 保育所の友達と交流しよう①
	9月23日(水)	総合的な学習の時間	全員	交流に向けて準備
	9月30日(木)	総合的な学習の時間	全員	交流に向けて準備
	10月 7日(水)	学級活動(1)	全員	保育所の友達と交流①
	10月 8日(水)	総合的な学習の時間	全員	1回目の交流のふり返り
	10月 8日(水)	総合的な学習の時間	全員	年長児担任へのインタビュー
	10月12日(月)	休憩時間	計画委員会	議題の選定
	10月13日(火)	朝の会	全員	学級会の予告
	10月15日(木)	かがやきタイム	全員	議題の決定・提案理由の確認・学級会ノートに記入
	10月19日(月)	休憩時間	計画委員会	学級会ノートの集計
	10月20日(火)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月21日(水)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月22日(木)	給食時間	計画委員会	進行打ち合わせ
本時	10月23日(金)	学級活動(1)	全員	(議題) きりん組のみんなに郡家東小学校の楽しさを知ってもらおう
事後	10月26日(月) ～11月下旬	総合的な学習の時間	全員	保育所年長児との交流②に向けて準備
	12月1日	学級活動	全員	年長児に小学校のよさを伝える会

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

出された意見のよさを生かして話し合い、保育所の友達に郡家東小学校の楽しさを分かりやすくより深く伝えるための方法や内容を決めることを通して、相手にとってよりよい方法を吟味することができる。

(2) 児童の活動計画

第10回 学級会 個人ノート

議題		きりん組のみんなに郡家東小学校の楽しさを知ってもらおう		10月23日(金)		2校時	
提案理由	保育所の友達と初めて交流しました。おたがいのことが分かりよかった部分もありましたが、不安そうな子や困っている子もいることに気づきました。また、きりん組の先生のお話からも、まだ小学校のことがよく分かっていない友達がいることを知りました。そこで、自分たちの知っている郡家東小学校の楽しさをもっと伝えたいと思いました。そうすることで、保育所の友達が「郡家東小学校は楽しいところだ!」とわくわくして入学を楽しみにできると思い提案しました。				提案者		
話合いのめあて	・柱1…出された意見のよさを生かして話し合い、保育所の友達に小学校の楽しさを伝える方法を1つ決めよう。 ・柱2…会を通して、保育所の友達全員に、郡家東小学校の楽しさがより伝わることを考えよう。						
決まっていること	・11月19日の学級活動の時間に交流を行う。・使える時間は30分程度。 ・場所は校舎内・学習、給食、友達、学校生活(登下校など)、集会について伝える ・準備は総合的な学習の時間を5時間使う。(残りは特活タイム15分×4回分)						
役割	司会	黒板		黒板			
	司会	黒板					
話合いの順序							
1 はじめの言葉		2 計画委員会の紹介		3 議題の確認		4 提案理由の発表	
5 話合い		6 決まったことの発表		7 先生の話		8 終わりの言葉	
時間	話し合うこと			自分の考え・理由			
15分	柱1 何を通して小学校の楽しさを伝えるか			(例) ・劇 ・郡家東小学校説明会 ・東小ミニ授業 一斉に見たり聞いたりして知る ・教室内スタンプラリー(小学生体験講座) ・郡家東小マスタークイズ グループで体験して知る			
20分	柱2 小学校の楽しさをどのように伝えるか(工夫)			(例) 内容や仕組み ・学習、休憩時間(友達)、給食、 <u>東小自慢ベスト1</u> のコーナーをつくる ・コーナーごとにスタンプ ・全部回ったら東小マスターカードをプレゼント ・学校が楽しみになる内容にする ・学校でやることが自分にとってどういいのか伝える内容にする ・クイズなども入れて参加・体験型にする 伝え方の工夫 ・分かりやすく、はっきりと、目線を合わせて ・相手の反応を引き出すような話し方(巻き込む) ・「小学校で待ってるよ」など、楽しみになることを言う 心配点の克服のために ・年長児サポート役をつける ・年長児を惹きつける工夫をする ・回り方が分からない可能性があるので、一度保育所の友達とシミュレーションする(または実演して見せる) ・1年役になって体験してみる→その後修正 ・5年生の課題改善に向け、自分の課題やめあてをしっかりと意識して活動に臨む			

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		
2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由とめあての確認 決まっていること 先生の話	- 自分のめあてがはっきり言えるように指導しておく。 - 提案理由のキーワードをおさえ、話し合いを進めていくように助言する。	
5 話し合い (1) 柱1 何を通して小学校の楽しさを伝えるか ・比べ合う ・決める	- 事前の「分かり合う」の段階では、出ている意見に質問を行い、全員が共通理解したうえで「比べ合う」の話し合いを行うことができるように指導する。 「決める」の段階でなかなか決定ができない場合には、今回は何の要素を決め手として大切にしたいのか投げかける。その際、提案理由を再確認して、話し合いの論点にずれが生じないようにする。また、決め手となった理由を明らかにしてまとめることができるように、事前に計画委員会に指導しておく。	【知識・技能】 これまでの話し合いを生かして、合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解している。 〈観察〉
(2) 柱2 小学校の楽しさをどのように伝えるか（工夫） ・出し合う ・分かり合う ・生かし合う ・決める	- 黒板係は、意見を分類・整理しながら黒板に短冊を貼るように指導しておく。適時、教師が指導や補助に入り、黒板を構造化できるようにする。 「分かり合う」の段階では、出された意見に質問をして、出た考えの真意を確かめ、イメージの共有ができるようにする。 「生かし合う」の段階では、適宜生かし合うボードを使う。さらに話し合うことで提案理由に迫ることができる部分を見つけ出し、意見の深化や整理を行うことができるようにする。必要であれば、論点の整理を教師主導で行う。 - 心配意見の改善、優先順位を付けるなど、実際の活動を見据えた話し合いになるように助言する。 「決める」の段階では、決めていいものと、そうでないものをはっきりと整理させ、決め手となった理由を明らかにしてまとめることができるように、事前に計画委員会に指導しておく。	【思考・判断・表現】 提案理由に沿って保育所の友達に小学校の楽しさを知ってもらうための工夫を考え、友達の意見を自分と比べながら聞いて吟味したり、建設的な意見を言ったりしている。 〈観察〉
6 決まったことの発表		
7 先生の話	提案理由を意識した発言や建設的な意見を出した児童を称賛したり、計画委員会を労ったりするとともに、今後の話し合い活動の中でがんばってほしいことを指導して、次時への意欲付けとする。	
8 終わりの言葉		

6 事後指導

- ・準備や活動の中で、児童が前向きに取り組む姿や協力して取り組む姿を見つけ、称賛していく。
- ・活動後ふり返しを行い、今回の活動の達成感を共有するとともに、今後の活動に向けての意欲につなげる。